

- 1 審議会名 平成25年度 第2回 上田中央公民館運営審議会
- 2 日時 平成26年3月11日(火)午後1時30分から午後3時10分まで
- 3 会場 中央公民館 第四会議室
- 4 出席者 田中美英子委員、久保田夕佳委員、峯村秀則委員、矢島康夫委員、
市側出席者 神林館長、田中次長
- 6 公開・非公開等の別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 26年3月11日

協議事項等

(開会に先立ち、改修が完了したホール照明設備の視察)

1 あいさつ (峯村会長)

2 協議事項 (進行: 峯村会長)

(1) 平成25年度事業報告について(説明: 神林館長)

(委員) 短詩型文学祭の作品数の動向についてはどうか。

(事務局) 記録が残っている中では最多の応募があった。児童生徒の部が大幅に増加した。

(委員) 神川地区公民館で実施した「おやき」の講座はどうだったか。

(事務局) 男性も参加して好評だった。好評により追加して実施した。

(委員) 短詩型文学祭の選者に、俳句の指導を学校で行ってもらえばありがたい。
学校で指導してもらう場合、謝金はどうなるのか。

(事務局) 学校からの依頼で、登録団体に講師を依頼する場合は無料をお願いしている。

(委員) 様々な事業を行なっているように感じる。自分が関わってきた以外の分野にも参加
していきたい

(委員) 設備も古くなるので改修が必要。新しい施設に更新できないなら、うまく改修して設
備を活用してほしい。次世代の育成のため、ことぶき大学の卒業生などが、キーパーソ
ンとなって指導していけるような仕組みづくりも必要。

(委員) 現在の小学6年生は市内におよそ1500人だが、新生児は350人少ない。12年後には2
割減となる。ことぶき大学の卒業生等がキーパーソンとなり、次の世代を担う若者が地
元に居つくような精神的な支えになるようになってほしい。

(2) 平成26年度事業計画について(説明: 神林館長)

(委員) 中心となって動く、キーパーソンを育てるのが大切。

(事務局) 団塊の世代には、高いスキルを持っている人材も多い。人材を開拓するのも公民館の
役割だが、規模の割に職員が少ないのが現状であり苦慮している。

(委員) 対象人口が多くて大変だと思う。新しいことを始めるのは難しいので、継続事業を確
実にやり遂げることが大切と感じる。

(委員) 「歴史散歩 - 上田唱歌を辿って」は、とてもよい講座だと思う。

(委員) 利用者を増やし、利便性を高めるためにも、駐車場のスペースを増やしてほしい。(例
えば高層の駐車上にするなどの方法で)

(委員) 長野県は全国でいちばん公民館が多い。他の公民館の活動をヒントに事業を行なうこ
ともできる。26年度も尽力いただきたい。

(3) その他 なし